

市町村名	南大東村									
令和2年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート										
事業名	南大東村テリハボク高度活用プロジェクト事業					事業類型	■ 産業振興 □ 定住促進 □ その他			
担当部署名	南大東村役場産業課					事業実施 (予定)年度	令和元年度～令和3年度			
事業内容	島内各所に存在するテリハボクの果実を有効活用し、新たな村の特産品として開発し、商品化する。									
	先導性に係る取組	□ 自立性 □ 官民協働	■ 政策間連携 □ 事業推進主体の形成	□ 離島活性化を担う人材の確保・育成 □ その他						
効果発現年度	■ 当年度 ■ 後年度(令和4年度)									
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度			
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	9,801	16,334						
		(b) 予算現額	9,801	17,379						
		(c) 増減額 (b-a)	0	1,045						
		(d) 繰越額	0	0						
		A. 計 (b+d)	9,801	17,379						
	B. 執行済額		9,790	17,379						
	うち補助金充当額		7,832	13,902						
	次年度繰越額		0	0						
	執行率 (%) (B/A)		99.9%	100.0%						
予算の状況の説明		・当初の計画通り、製品開発や試験販売、オイル品質安定化を行い、事業は適切に執行できた。 ・オイル搾油施設の変更により当初計画より増額となった。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	活動目標(指標)			達成状況						
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度			
	テリハボクオイルの商品化及び試験販売の実施	目 標	(オイルの商品化及び販売)	(オイルの商品化及び販売)	()	()				
		実 績	ピュアオイル1,000本 クリーム200個	ピュアオイル1,000本 クリーム200個 石鹸210個						
	オイル品質の安定化(高品質歩留向上)	目 標	(オイル品質の安定化)	(オイル品質の安定化(年間50kg搾油))	()	()				
		実 績	歩留が向上	品質の安定化						
達成状況説明	○ピュアオイルとクリーム、そして新たに石鹸3種類の計5種類について商品化し試験販売を行った。 ○オイル搾油に関しては、歩留まり及び品質向上、作業効率化のためのテリハボク搾油施設を建設した。新しく雇用した2人を搾油までの工程を指導し年度終わりには作業も覚え、問題なく搾油ができた。搾油後は出荷まで冷凍保存することによりオイル品質低下を防ぐことに成功した。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)			基準値 (一年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (一年度)		
	テリハボクオイル関連特産品(試作品)の売上げ	目 標		(360万円以上/年)	(560万円以上/年)	()	()			
		実 績	-	236万円	389万円			-		
	成果目標(指標)			基準値 (一年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (R4年度)		
	・テリハボク関連特産品の製造・販売業務に従事する村内の雇用者2名。	目 標		(2人以上)	(2人以上)	(-)	(2人以上)			
		実 績	-	2人	2人	-	-			
進捗状況説明	○ピュアオイル1,000個、ハンドクリーム200個を、石鹸(3種)210個を製造・販売した。ピュアオイルは完売したが、試作品の売上げは389万円が目표売り上げの69%に留まった。 ○航空販売は認知を広げるため、卸価格を下げ、買い求めやすい金額に設定し販売した。総売上上の77%が航空販売となった。 ○ピュアオイル6,600円、ハンドクリーム4,400円、石鹸(10%)1,800円、(30%)2,520円で販売。 ○前年度は、台風直撃により原料の種子が大幅減となり、成果目標に達することができなかった。今年度は、原料確保が十分であり目標達成は可能。									

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	○搾油し、ろ過を行う際に周りの温度が低いと粘度が高まり、ろ過に時間がかかってしまうため周囲の温度を上げる必要がある。 ○テリハボクの実が熟す前に台風が来ってしまうと収穫ができなくなる ○販売先の確保・イベント等の中止などによる売上の減。	○ろ過をする際は周囲の温度を上げる機材等が必要である。 ○実の収穫を最優先にする必要がある。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止となっていたイベントや機内販売の再開、新たな販売施設等の販路拡大を行い売上の増を目指す。
今度の取組方針		
○容器や箱を含む商品の改良を行い、より高付加価値な特産品となるよう、商品試作や試験販売を今後も行う。 ○原料の種子収穫を最優先にし保管することで、通年でピュアオイル搾油ができ安定的な製造が可能となり、継続的に商品を販売できるようにする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>補助対象事業費</th><th>補助金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>補助対象外経費</th></tr> <tr> <td>17,379</td><td>17,379</td><td>13,902</td><td>3,477</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費	17,379	17,379	13,902	3,477	0
総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費										
17,379	17,379	13,902	3,477	0										
南大東村 千円	委託料 7, 319千円	特定非営利活動法人 亜熱帯バイオマス利用研究センター 7, 319千円 令和2年度南大東村テリハボク高度活用プロジェクト事業												
南大東村 千円	工事費 5, 896千円	有限会社南工業 5, 896千円												
南大東村 9,790千円	備品費 4, 243千円	(株)サン精機 2, 575千円 (株)第一機構 1, 314千円 (有)文正堂 94千円 ホシザキ沖縄(株)広域グループ 260千円												
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○バイオマス利用に対する内外での豊富な実績があり妥当と判断した。委託事業者は、29年度より調査を行っていて継続で随意契約している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											